

加賀検定

第5回 加賀ふるさと検定試験問題

初級（全60問）

2017年 12月17日

加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会

各問題に対して、それぞれ①～④までの選択肢の中に正解が1つあります。解答用紙に、正解と考える番号を1つだけ○で囲って下さい。(黒色のエンピツもしくはボールペンを使用のこと)

- 1 洗濯機が普及する以前は、鹽と()が、洗濯用具の必需品であった。
①洗濯ブラシ ②洗濯棒 ③洗濯板 ④洗濯ざる
- 2 西洋型の履物が普及するまでは、旅をしたり、外仕事をするときには主に()を履いた。
①ぞうり ②ズック ③わらじ ④革靴
- 3 今は電気コンロやガスコンロなどで煮炊きをするが、それ以前は()に鍋や釜をかけて、下から薪やほえ等をくべて火をたき、加熱した。
①ホットプレート ②かまど ③たき火 ④自在かぎ
- 4 当地域で使われてきた方言の()は、素早くて抜け目のない、賢い様子のことである。
①はかいく ②べんこな ③はしかい ④あせくらしい
- 5 加賀の人々は、古来から親しんできた()・鞍掛山・富士写ヶ岳の3つの山を「江沼三山」と呼んできた。
①錦城山 ②白山 ③大日山 ④水無山
- 6 山中から山代地区へ突き出した丘陵地(台地)の東側を流れる()は、大日山を源流としている。
①動橋川 ②梯川 ③奥野谷川 ④大聖寺川
- 7 柴山潟は今江潟、木場潟とともに、()のひとつであるが、昭和29年の干拓工事で、その3分の2が埋められた。
①加賀三湖 ②江沼四湖 ③能美四湖 ④小松三湖
- 8 当地で古くからつくられてきた「ぜいたく煮」あるいは「いなか煮」と呼ばれている郷土料理は()を甘く煮込んだものである。
①サツマイモ ②カモリ ③ゼンマイ ④タクワン
- 9 近年、山代温泉大和町地内でも()が目撃されているが、一般に、秋、木の実が不作になると人里まで降りてくると言われている。
①鴨 ②リス ③熊 ④ウサギ

- 10 加賀市の植生のほとんどはヤブツバキクラス域に覆われており、()など一年中葉の落ちない常緑広葉樹で構成されている。
- ①カキ ②タブ ③クリ ④カエデ
- 11 大聖寺藩士()は、大坂の緒方洪庵が主宰する適々齋塾に学び、第7代塾頭になった。その後、金沢病院大聖寺分院の創設に尽力した。
- ①渡辺崋山 ②大田錦城 ③渡辺卯三郎 ④梅田五月
- 12 大聖寺藩士()は、明治初年、偽金づくりが発覚した際、その処理に奔走して藩の難局を救ったが、彼の最も大きな業績は琵琶湖に汽船を就航させたことである。
- ①前田利鬯 ②石川嶂 ③市橋波江 ④飛鳥井清
- 13 大聖寺出身の病理学者桂田富士郎は、明治37年、風土病の原因ともなっていた()を発見し世界的に注目された。
- ①赤痢菌 ②ジャアスターゼ ③日本住血吸虫 ④蚤
- 14 大聖寺生まれの()は、5才の時の絵が加賀藩9代藩主前田重教に認められ、加賀藩のお抱え絵師となった。
- ①小原文英 ②北大路魯山人 ③佐々木泉景 ④芭蕉
- 15 橋立の北前船主()は、明治22年、拠点(きょてん)を函館(はこだて)に移し北洋漁業(ほくようぎょぎょう)に転身し、その後、区会議員や函館銀行の取締役として活躍し北海道経済界の重鎮(じゅうちん)となった。
- ①廣海二三郎 ②西出孫左衛門 ③銭屋五兵衛 ④新家熊吉
- 16 現在、加賀市では、縄文・弥生・古墳時代の埋蔵文化財が、約()ヶ所確認されており、県内有数の遺跡の密集地となっている。
- ①550 ②650 ③750 ④850
- 17 ()は、加賀市では最も古い旧石器時代の遺跡で、玉髓(ぎょくずい)や珪質岩(けいしつがん)の硬い石材で作られた石刃(そうき)や搔器(そうき)などが見つかっている。
- ①柴山貝塚遺跡 ②新堀川遺跡 ③宮地向山遺跡 ④保賀遺跡
- 18 「北陸の登呂遺跡」とも称される()では、貴重な木製品が多数発見され、また、出土した土器の形から山陰文化圏との結びつきが極めて強いことが分かった。
- ①猫橋遺跡 ②柴山出村遺跡 ③鹿島の森遺跡 ④弓波遺跡

- 19 黒瀬・南郷古墳群のうち、吸坂イカリ山13号墳は全長（ ）mを越す市内最大の前方後円墳で、江沼郡全体を治めた豪族の墳墓と推察されている。
 ①30 ②50 ③70 ④150
- 20 律令体制下の北陸道が通る江沼郡域には（ ）と潮津駅の2駅が置かれ、その中継機関として「駅」が設置された。
 ①三尾駅 ②朝倉駅 ③大聖寺駅 ④動橋駅
- 21 平安後期の書である『白山之記』には、江沼郡域における白山信仰の拠点として、柏野寺・温泉寺・（ ）・小野坂寺・大聖寺の5つの寺院が建立されたことが記載されている。
 ①愛染寺 ②栄谷寺 ③温谷寺 ④極楽寺
- 22 文永10年（ ）の地頭であった大見実泰は、領家徳大寺家の預所との間で、土地を折半するという下地中分を行い、庄園の半分を自分の領土とした。
 ①福田荘 ②熊坂荘 ③山代荘 ④右荘
- 23 鎌倉時代、江沼郡の北野社領福田庄の地頭として土着した狩野氏は、領内の総鎮守である（ ）の神主となり、江沼郡で最も有力な国人（土豪）にまで成長した。
 ①菅生社 ②忌浪社 ③服部社 ④白山社
- 24 弘治元年、越前の（ ）が一向一揆を潰滅させようと、加賀へ大挙して侵入し、以後10年にわたる加越抗争が始まった。
 ①柴田勝家 ②富樫政親 ③朝倉宗滴 ④本多成重
- 25 明治4年7月、廃藩置県により、「大聖寺県」が誕生したが、（ ）ヶ月後には金沢県に合併された。
 ①4 ②6 ③8 ④10
- 26 悉曇学を学び、わが国の50音字の配列に大きな影響を与えた（ ）は、山代温泉の温泉寺薬王院の僧である。
 ①空海 ②最澄 ③延昌 ④明覚
- 27 寿永2年、篠原の合戦で木曾義仲軍の手塚太郎光盛に討たれた（ ）は、白髪を黒く染めて参戦したという伝説がある。
 ①斎藤別当実盛 ②比企藤内朝宗 ③林六郎光明 ④今井四郎兼平

- 28 山田光教寺は、文明 18 年頃に、蓮如の 4 男（ ）が江沼郡の門徒たちの願いにより入寺した寺で、「加州三ヶ寺」の一つとして一向一揆を統制した。
 ①道元 ②日蓮 ③蓮誓 ④一遍
- 29 宝永 6 年、大聖寺 3 代藩主前田利直の御休憩所として建てられた「長流亭」の屋根は（ ）である。
 ①瓦葺き ②柿葺き ③藁葺き ④茅葺き
- 30 大聖寺の豪商（ ）は、文政 6 年（1823）、九谷焼を再興しようと、現在の山中温泉九谷町の古九谷窯跡のすぐ傍らで、新たな窯を築いた。
 ①豊田伝右衛門 ②後藤才次郎 ③田村権左右衛門 ④飯田屋八郎右衛門
- 31 大聖寺城主溝口秀勝は、慶長 3 年（1598）4 月に越前北庄城主堀秀治の越後（新潟県）春日山への移封に伴い、同国（ ）に移動した。
 ①本庄 ②高田 ③新発田 ④糸魚川
- 32 慶長 5 年、大聖寺城主の山口玄蕃宗永父子は（ ）の軍勢で、25,000 人の大軍を率いる金沢城主前田利長と戦い、僅か 1 日で敗戦し大聖寺城内で自決した。
 ①600 人 ②1,200 人 ③4,500 人 ④12,000 人
- 33 大聖寺藩前田家の菩提寺である（ ）には歴代藩主の位牌が祀られ、また、その裏山には、初代から 14 代までの歴代藩主の墓が建っている。
 ①本光寺 ②全昌寺 ③慶徳寺 ④実性院
- 34 天正 3 年、長篠の合戦に勝利した織田信長は、その後、越前・加賀に侵入し北陸を平定したため、およそ（ ）年続いた一向一揆の支配が終焉した。
 ①50 ②100 ③150 ④200
- 35 大聖寺新田 1 万石の藩祖（ ）は、宝永 6 年 2 月に上野寛永寺で行われた將軍徳川綱吉の法会において、御馳走役の大和柳本藩主織田秀親（監物）を殺害した。
 ①前田利家 ②前田利治 ③前田利常 ④前田利昌
- 36 大聖寺藩の十村には、十村組を有する組付十村と、それらを監視する（ ）の 2 種があった。
 ①目付十村 ②脇指十村 ③苗字十村 ④横目十村
- 37 大聖寺藩主が参勤交代で下街道を通るときは、金沢城へ出向き、藩主や重臣に挨拶すると共に、宝円寺や（ ）を参詣した。

- ①芳春院^{ほうしゅんいん} ②松月寺^{しょうげつじ} ③長国寺^{ちやうこくじ} ④天徳院^{てんとくいん}

38 享和3年6月、伊能忠敬^{いのうただたか}ら測量隊^{そくりやうたい}8人は、大聖寺藩領^{はんにやう}の沿岸^{えんがん}を測量^{そくりやう}するために、
()の板屋や松屋、片野村^{きまのりたく}の肝煎宅^{きんせんたく}、橋立村^{はしだて}の因随寺^{いんずいじ}などに宿泊した。

- ①片山津 ②大聖寺 ③山代 ④山中

39 大聖寺藩主9代前田利之^{なりなが}は、文政4年12月に加賀藩主12代前田斉広^{がんしよ}の願書^{ねんしょ}により江戸幕府から()万石^{たいぐわう}の待遇^{こうにん}が公認された。

- ①4 ②7 ③10 ④100

40 元禄2年、松尾芭蕉^{まつお}は「奥の細道」の旅の途中、山中温泉^{とうりやう}に逗留^{とくりゆう}した。このとき、芭蕉^{ばしやう}が宿泊した()の当主久米之助^{くめのすけ}に与えた掛軸真蹟^{かけじくしんせき}が現在も残されている。

- ①越後屋^{えちごや} ②山下屋^{やましたや} ③泉屋^{いづみや} ④柿屋^{かきや}

41 川端御亭^{かわばたおちん}(現長流亭^{ちやうりゆうてい})は、江戸前期の茶人として知られる()の建築意匠^{けんちくいしやう}を採り入れた茶席図^{ちやせきず}をもとに建造された可能性^{けんぞう}が指摘^{してき}されている。

- ①古田織部^{ふるたおりべ} ②山田宗偏^{やまだそうへん} ③本阿弥光悦^{ほんあみこうえつ} ④小堀遠州^{こぼりえんしゆう}

42 大聖寺藩は城を築くことが認められず、現在の()が建っている場所あたりに藩邸屋敷^{はんていやしき}を建てた。

- ①錦城小学校 ②大聖寺地区会館 ③加賀聖城高等学校^{かがせいじやうこうとうがっこう} ④九谷焼美術館

43 大聖寺関所の柵門^{さくもん}は、明治2年に関所が廃止されたとき、家老生駒一彦^{いこまかずひこ}の口利き^{くちき}で山の下寺院群の一つである()の境内^{けいだい}に移され現在に至っている。

- ①医王寺^{いおう} ②宗寿寺^{そうじゆ} ③実性院^{じつしやういん} ④温泉寺^{おんせんじ}

44 錦城山^{きんじやうざん}には、南北朝時代^{なんぼくちやうじだい}から元和元年までの間、数度に亘って大聖寺城が築かれてきたが、この大聖寺城が歴史に登場するのは、南北朝時代の()が初見である。

- ①平家物語^{へいけものがたり} ②太平記^{たいへいき} ③山口記^{やまぐちき} ④源平盛衰記^{げんべいせいすいき}

45 大聖寺藩祖と菅原道真^{すがわらのみちざね}を祀る()には、藩祖利治^{はんそとしはる}の父である加賀藩主3代前田利常^{のうめん}から与えられたとされる能面^{のうめん}3面と能装束^{のうしやうぞく}3領が所蔵^{しよぞう}されている。

- ①菅生石部神社^{すがういそべ} ②加賀神明宮^{しんめいぐわう} ③江沼神社 ④愛宕神社^{あたご}

46 明治4年11月、新たに誕生したばかりの大聖寺県で農民一揆^{いっき}が起こった。この一揆は、集まった農民の姿から()一揆と呼ばれている。

- ①ミノムシ ②ジンガサ ③サックリ ④イノシシ

- 47 昭和初年から戦後にかけて大聖寺で大量に生産された（ ）は、真っ白で肌触りがよく、全国的にも高い評価を得て、海外にまで輸出された。
 ①つむぎ ②友禅ゆうぜん ③羽二重はぶたえ ④ちじみ
- 48 当地出身の政治家でこれまでに大臣となった人は、厚生大臣を務めた竹田儀一たけだぎいちと農林大臣を務めた（ ）の2人だけである。
 ①坂田英一さかたえいち ②岩原謙三いわはらけんぞう ③梅田五月うめださつき ④瓜生外吉うりゆうそときち
- 49 昭和17年、それまでの温電おんでんに代わって、北陸鉄道（ ）が昭和40年代まで加賀温泉郷を結ぶ交通体系の中心となった。
 ①南加賀線みなみがせん ②大聖寺線だいしょうじせん ③江沼線えぬません ④加南線かなんせん
- 50 昭和33年1月、江沼郡10町村のうち、（ ）を除く9ヶ町村が合併し、加賀市（旧）が誕生した。
 ①動橋 ②山代 ③山中 ④片山津
- 51 明治期、江沼郡では、伊万里焼いまりやきの写しを大量に生産した。この焼き物は仕上がりが良く、（ ）伊万里と呼ばれ、海外では大変人気があった。
 ①加賀 ②江沼 ③大聖寺 ④山代
- 52 加賀市の機械産業の隆盛は、明治36年、初代新家熊吉あらいやくまきちが創業した「新家商会」あらやが自転車部品の（ ）を製造したことがきっかけだといわれている。
 ①サドル ②タイヤ ③リム ④ペダル
- 53 加賀市には江戸時代から、酒づくりをおこなってきた蔵元くらもとが3つあるが、このうち、八日市町の鹿野酒造の酒は（ ）の商品名で知られている。
 ①獅子の里しし ②大日盛だいにちさかり ③常きげんじょう ④菊姫きくひめ
- 54 JA加賀の（ ）を原料とした焼酎しょうちゅうの商品化は、農業の6次産業化として注目されている。
 ①さつまいも ②やまいも ③かぼちゃ ④じゃがいも
- 55 加賀市では、2013年から毎年、一定のコースを限られた時間内で何周出来るかを競う（ ）と称する自転車耐久レースが、開かれている。
 ①温泉ライダー ②サイクルライダー ③チェーンライダー ④かがやきライダー

専門テーマ「鴨」

- 56 片野鴨池の「大池」の面積^{めんせき}は、通常は1.5ha程度の小さな池であるが、冬場は水張りをすることで、最大約（ ）の池となる。
①1.8ha ②5.2ha ③10ha ④22ha
- 57 冬場、片野鴨池には数多くの渡り鳥が飛来してくるが、特に絶滅危惧種^{ぜつめつきぐしゅ}となっている（ ）の国内最大の飛来地となっている。
①マガン ②トモエガモ ③ヒシクイ ④ハクチョウ
- 58 片野鴨池では、江戸時代からV字形の枠^{わく}に張り付けた網を空中高く放り投げる（ ）猟と呼ばれる伝統猟が行われてきた。
①空網^{そらあみ} ②打網^{うちあみ} ③坂網^{さかあみ} ④突網^{つきあみ}
- 59 昭和24年、当時の捕鴨組合長^{ほこう}であった（ ）は、単身、東京のGHQ^{れんごうこくぐんそうしれいぶ}（連合軍総司令部）に乗り込んで、銃の使用をやめるよう陳情^{ちんじょう}した。
①中村肇伸^{なかむらとしのぶ} ②池田豊孝^{いけだとよたか} ③村田安太郎^{むらたやすたろう} ④梅田五月^{うめださつき}
- 60 片野鴨池は、昭和46年に（ ）条約に基づく、水鳥の生息地^{せいそくち}として特に重要な湿地^{しっち}として登録^{とうろく}された。
①サンフランシスコ ②ポツダム ③ワシントン ④ラムサール